

甲南大学岡本キャンパス内のクロマツの伐採について

2022年5月27日未明に岡本キャンパス2号館前のクロマツの大枝が折れて「まつステージ」上に落下したことを受け、岡本キャンパス内に生育するクロマツの樹木診断を行いました。

その結果、なかには樹木内部の腐朽が進行しているものがあり、不自然な傾斜、大枝の張り出しなどにより、将来的に、クロマツの倒伏・折損のおそれがあったくないとは言い難い状況にあることが明らかになりました。

そのため、キャンパスの安全を第一に考え、クロマツの一部を伐採し、また大枝を切り縮めることにいたしました。

印のクロマツを伐採

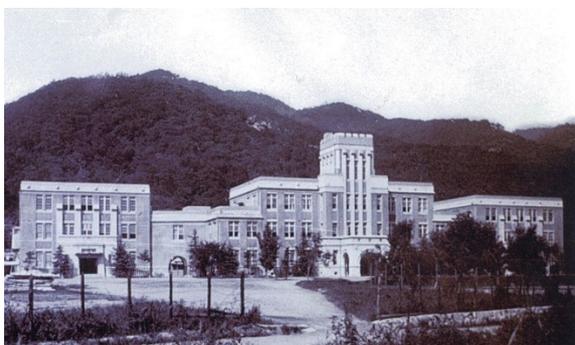


正門から1号館前に向かうスロープ



2号館前

岡本キャンパスのクロマツは、旧制甲南高等学校が開校した1923年に植樹されたと思われます。およそ100年の長きにわたり私たち学生・教職員を見守ってきたクロマツは、甲南の歴史そのものです。



1928年



1940年頃

安全にはかえられないとはいえ、大切にしてきたクロマツを伐採することはたいへん残念でなりません。

今後も、緑豊かな岡本キャンパスの落ち着いた雰囲気を醸成している樹木をできるだけ生き長らえさせるよう、キャンパスの安全を確保しつつ、樹木の維持管理を行ってまいります。

○伐採するクロマツは、正門から1号館前に向かうスロープ左側の6本と2号館前の1本です。

○伐採は8月中旬に行います。なお、夏場は剪定後に松脂が大量に垂れるため、大枝を切り縮める作業は冬期休業期間中に実施する予定です。

○伐採したクロマツの思い出を形に残すことができないか、今後、検討いたします。

管財部